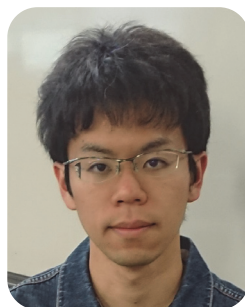


〔第181回明専塾（安川電機グループ）〕

新たな挑戦を、前向きに

生命体工学研究科生体機能応用工学専攻M1 松元 達紀



はじめに

令和元年11月15日、戸畑キャンパスにおいて第181回明専塾が開催されました。今回は安川電機グループのOBの方々に講演していただきました。安川電機は第1回の明専塾も担当した九州工大と繋がり深い企業です。今回は明専塾初の試みとして、講演会の後にグループディスカッションが行われました。

今冬に就職活動に臨む身として、企業の方のお話を詳しくお聞きしたいと思い、今回の明専塾に参加しました。

講演会

私の研究分野が近いというのもある

りますが、とても興味深い話を聞くことができました。実践的な技術の話から、新技術はどのように生み出されていくのかといった心構えのような話まで、大学ではなかなか触れられることのない内容でした。

例えば、デジタルツインという産業用ロボット分野の新技術については、自分から率先して調べていかなければ知ることができなかったと思います。また、YE DIGITALのスマートバス停の技術について、バス停を電子化して広告などにも用いようとする取り組みは全く思いついたことがなく、新事業というのはこうやって見つけ出していくのかと唸ってしまふような気持ちでした。

また、私は3年前にも安川電機の企業説明会に参加したことがあります。そのときに紹介していただいた『2020年ビジョン』が今回『2025年ビジョン』に更新されています。常に将来の企業と業界の姿を見据え続ける姿勢が数年越しに実感

でき、それがとても心に残りました。

グループディスカッション

グループディスカッションは、6人手程度の学生のグループを、社員の方が二人一組で順番に回って学生と話し合うという形式でした。

社員の方が実際に就活をしていた際にどのように行動し、どうして安川電機を選んだのかをお話していただいたり、同じ部署で働くとしてどのような人材が欲しいかなど、このような場でしかできない話をいくつも聞くことができました。

また、グループ内の他の学生も社員の方にとっても積極的に質問をしていて、こうして就活について真剣に考えている人が身近にいるということを知って、身が引き締まる思いでした。そういう意味でもこのグループディスカッションは就活生に対して価値があるのではないかと感じました。

最後に

最後に、ご多忙の中で講演をしていただいた安川電機グループの皆様ならびにこのような貴重な機会を提供してくださった明専会や教職員の

皆様に、心より御礼申し上げます。

（令和元年11月記）



グループディスカッションの様子



講演会の様子